BUFFALO

MOS シリーズ

セットアップマニュアル

(バックアップユーティリティ添付モデル)

MO ユーティリティ .... 5　1

Drive Image .... 18　2

付録 .... 27　3

本書はMOSシリーズのドライバおよびフォーマッタのインストール手順や使いかた、Drive Imageのインストール手順やバックアップのしかたを説明しています。
MOドライブをパソコンに取り付けた後、本書をよくお読みになり、ドライバおよびフォーマッタを必ずインストールしてください。

本書の使いかた

本書を正しくご活用いただくための表記上の約束ごとを説明します。

表記上の約束

注意マーク .... ⚠注意 **に続く説明文は、製品の取り扱いにあたって特に注意すべき事項です。この注意事項に従わなかった場合、身体や製品に損傷を与える恐れがあります。**

次の動作マーク .... 次へ **に続くページは、次にどこのページへ進めば良いかを記しています。**

文中の用語表記

- **文中［　］で囲んだ名称は、ダイアログボックスの名称や操作の際に選択するメニュー、ボタン、チェックボックスなどの名称を表しています。**
- **文中<　>で囲んだ名称は、キーボード上のキーを表しています。(例) <Enter>**
- **本書では次のようなドライブ構成を想定して説明しています。**

A: 3.5インチフロッピーディスクドライブ
C: ハードディスクドライブ
E: CD-ROMドライブ

本ソフトウェアの使用によるデータの消失に関して、弊社はいかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。
フォーマット（初期化）は、お客様ご自身の責任において行ってください。

目 次

1 MO ユーティリティ 5

インストールの前に 5

付属ソフトウェアの概要 5

注意事項 5

PC98-NX シリーズでの使用 6

インストール 7

アンインストール 10

MO ディスクのフォーマット 11

フォーマット時の注意 11

MO フォーマットの起動と終了 11

フォーマット手順 12

MO キャッシュコントロールユーティリティの設定 13

Windows98/95 で PCI バス用 SCSI インターフェースボードを
使用している場合 14

DOS/Windows3.1 での使用 15

インストール手順 15

フォーマット手順 16

2 Drive Image 18

Drive Image の概要 18

できること 18

Windows2000 での制限事項 18

推奨動作環境 18

Drive Image のマニュアルを読むには 18

インストール 19
Windows98/95 19
Windows2000/NT4.0/NT3.51、Windows3.1、DOS 20
Drive Image の起動 20
Windows98/95 20
Windows2000/NT4.0/NT3.51、Windows3.1、DOS 21
使いかた 22
MO ディスクへのイメージファイルの作成（バックアップ） 22
MO ディスクからの復元 24

3 付録 27

MO ディスク間のコピー（Windows98/95 のみ） 27
制限事項 27
コピー手順 27
MO ディスク内のファイルの削除（Windows98/95 のみ） 29
制限事項 29
削除手順 29
困ったときは 31
用語集 34

1 MOユーティリティ

MOユーティリティのインストール方法や使用方法などを説明しています。

インストールの前に

付属ソフトウェアの概要

● 付属のソフトウェアをインストールすると次のツールが使用できるようになります。

＜MOSシリーズドライバディスク（フロッピーディスク）＞

・MOフォーマット（ドライバ含む）......... MOディスクをフォーマットします。【P11】
・MOキャッシュコントロールユーティリティ ... MOSのライトキャッシュ機能を設定します。【P13】
・MOコピー（Windows98/95用）........ 1台のMOドライブで、MOディスク間のコピーをします。【P27】
・ダストシュート（Windows98/95用）..... MOディスク内のファイルを完全に消去します。【P29】

＜ユーティリティCD-ROM＞

・Drive Image .... ハードディスクのバックアップや復元をします。【P18】

● 動作環境

・対象MOドライブ　弊社製MOSシリーズ
・対応OS　DOS/V機 .... Windows98/95/2000/NT4.0/NT3.51、Windows3.1、MS-DOS 6.2/V 以降、PC DOS J6.3/V 以降
　PC98-NXシリーズ Windows98/95/2000/NT4.0

注意事項

● 「MOSシリーズドライバディスク」に収録されているASPIドライバはWindows3.1およびDOS用です。Windows98/95/2000/NT4.0/NT3.51にインストールする必要はありません。

● Windows98ですでにMOドライブを使用している環境からWindows2000にアップグレードする場合は、事前MOユーティリティをアンインストールしてください。【P10】

● インストールを実行する前に、MOドライブをパソコンに取り付けてください。

● Windows2000/NT4.0/NT3.51にMOユーティリティをインストールする場合は、必ず管理者として権限を持つ(administrator)ログオン名でログオンしてください。

● 起動しているアプリケーションはすべて終了してください。

● 必ず「MOSシリーズドライバディスク」のバックアップディスクを作成してください。
作成方法は、各OSのマニュアルやオンラインヘルプを参照してください。
「MOSシリーズドライバディスク」は大切に保管し、インストール作業にはバックアップディスクを使用してください。

PC98-NXシリーズでの使用

CyberTrio-NXがインストールされている機種（※）では、CyberTrio-NXをアドバンストモード以外のモードで使用していると、本製品のドライバをインストールできないことがあります。ドライバをインストールする前に、必ずアドバンストモードに変更してください。

※ CyberTrio-NXはWindows98/95インストールモデルに標準でインストールされています。 CyberTrio-NXがインストールされていると、タスクバーにCyberTrio-NXのインジケータが表示されます。

メモ CyberTrio-NXのモードの確認方法
タスクバーに表示されているCyberTrio-NXのインジケータの色で確認できます。

赤	アドバンストモード	設定を変更する必要はありません。
黄	ベーシックモード	アドバンストモードに設定を変更してください。
緑	キッズモード／カスタムモード	アドバンストモードに設定を変更してください。

メモ CyberTrio-NXのモードの変更方法
再起動後もアドバンストモードになるように設定を変更します。

① [スタート]－[プログラム(P)]－[CyberTrio-NX]－[Go To アドバンストモード]を選択します。
アドバンストモードに切り替わります。

② [スタート]－[プログラム(P)]－[CyberTrio-NX]－[CyberTrio-NX セットアップ]を選択します。

③ [CyberTrio-NXのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。[アドバンストモード]を選択して[OK]ボタンをクリックします。
詳しい手順はパソコン本体のマニュアルを参照してください。

以上でアドバンストモードに設定されました。
本製品のドライバをインストールした後やWindows98/95の設定が終了した後は、アドバンストモード以外のモードも使用できます。 任意のモードに変更してください。

CyberTrio-NX

パソコンを使う人の利用するレベルに合わせてWindowsの操作範囲や、アクセスできるフォルダを限定するためのユーティリティです。 詳しくはパソコン本体のマニュアルを参照してください。

インストール

MOユーティリティをWindows98/95/2000/NT4.0/NT3.51にインストールする手順を説明します。

1 **周辺機器（MOドライブを含む）→パソコンの順に電源スイッチをONにし、OSを起動します。**

2 **フロッピーディスクドライブに「MOSシリーズドライバディスク」をセットします。**

3 **[スタート] − [ファイル名を指定して実行(R)]と選択します。[名前(O)]に A:\SETUP.EXEと入力し、[OK]ボタンをクリックします。**

下線部にはフロッピーディスクドライブのドライブ名を入力してください。

⚠注意 CD-ROMドライブ内の［MELCO］フォルダに収録されているSETUP.EXEは実行しないでください。古いバージョンのMOフォーマットがインストールされます。

WindowsNT3.51の場合

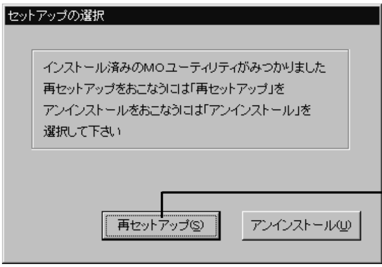
1 [アイコン(F)]メニューから[ファイル名を指定して実行(R)]を選択します。

2 [コマンド ライン(C)]にA:\SETUP.EXEと入力し、[OK]ボタンをクリックします。
下線部にはフロッピーディスクドライブのドライブ名を入力してください。

⚠注意 CD-ROMドライブ内の［MELCO］フォルダに収録されているSETUP.EXEは実行しないでください。古いバージョンのMOフォーマットがインストールされます。

すでにMOユーティリティがセットアップされている場合

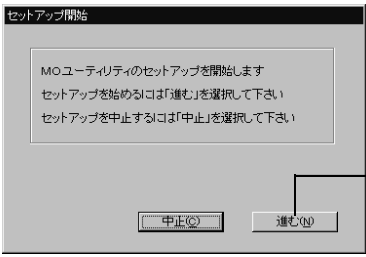
次の画面が表示されます。



※［アンインストール(U)］ボタンをクリックすれば、インストール済みのMOユーティリティを削除できます。MOユーティリティを再セットアップする時は、[再セットアップ]ボタンをクリックしてください。アンインストールをする必要はありません。

［再セットアップ(S)］ボタンをクリックします。

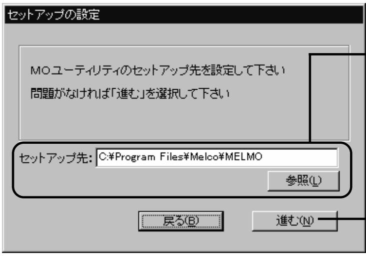
4



［進む(N)］ボタンをクリックします。

次のページへ続く

5



① MOユーティリティをインストールするディレクトリ名を入力します。
（または［参照(L)］ボタンをクリックしてインストール先のディレクトリ名を選択します。）

② ［進む(N)］ボタンをクリックします。

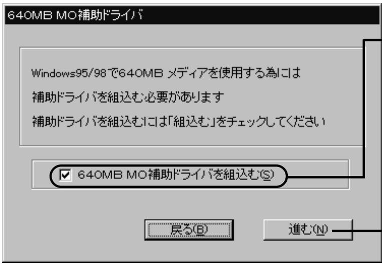
初期設定のインストール先は次のとおりです。

- Windows98/95/2000/NT4.0 .... C:\Program Files\MELCO\MELMO
- WindowsNT3.51 .... C:\MELMO

（下線部はWindowsがインストールされているドライブのドライブ名です。）

Windows98/95 の場合

次の画面が表示されます。



① 640MB 以上の MO ディスクを使用するときは、クリックしてチェックマーク（✓）を付けます。使用しないときはチェックマークを外します。

② ［進む(N)］ボタンをクリックします。

※ 230MBタイプのMOドライブを使用しているときは、チェックマークが付いていてもいなくても問題ありません。そのまま［進む(N)］ボタンをクリックしてください。

6



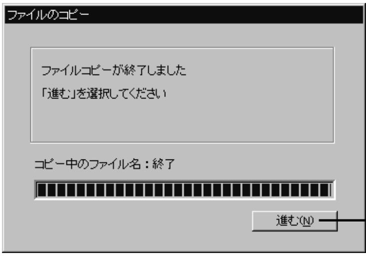
① ［使用OS］と［セットアップ先］を確認します。

この項目はWindows98/95の場合にだけ表示されます。

② ［開始(S)］ボタンをクリックします。

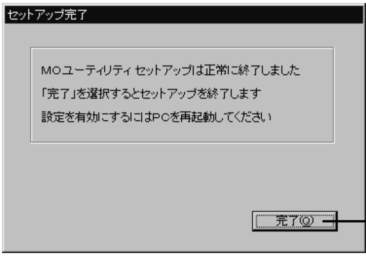
次のページへ続く

7



ファイルのコピーが終了したら、［進む(N)］ボタンをクリックします。

8



［完了(Q)］ボタンをクリックします。

9 **パソコンを再起動します。**

WindowsNT3.51の場合

次の操作を行ってWindowsNT3.51にMOドライブを認識させてください。

1 [コントロール パネル] の [デバイス] アイコンをダブルクリックします。

2 [Scsimo] を選択し、[スタートアップ] の状態を [ブート] に設定します。

3 パソコンを再起動します。
変更した設定内容は、再起動後に有効になります。

4 「ディスクアドミニストレータ」を起動します。

5 ［光磁気ディスクのドライブ文字］を設定します。

6 MOドライブにドライブ名が割り当てられます。

以上でMOユーティリティのインストールは完了です。

正しくインストールされると［MOS MOフォーマット］グループが作成され、[MOフォーマット]、[アンインストーラ]、[MOキャッシュコントロールユーティリティ]、[MOコピー] (*)、[ダストシュート] (*) のショートカットアイコンが登録されます。



画面はWindows98/95の例です。

* ［MOコピー］、［ダストシュート］はWindows98/95用のユーティリティです。Windows2000/NT4.0/NT3.51ではインストールされません。

［ダストシュート］のショートカットアイコンはデスクトップ画面にも登録されます。

アンインストール

MO ユーティリティが不要になったときは、次の手順でアンインストールします。

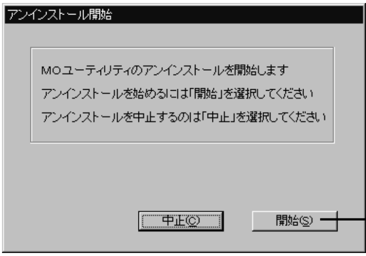
⚠注意 **Windows98ですでにMOドライブを使用している環境からWindows2000にアップグレードする場合は、次の手順で事前にMO ユーティリティをアンインストールしてください。**

1 [スタート] – [プログラム(P)] – [MOS MOフォーマット] – [アンインストーラ] を選択します。

WindowsNT3.51の場合

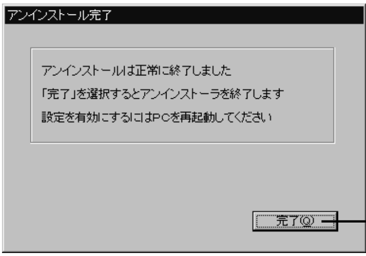
[MOS MOフォーマット] グループ内の [アンインストーラ] アイコンをダブルクリックします。

2



[開始(S)] ボタンをクリックします。

3



[完了(Q)] ボタンをクリックします。

4 パソコンを再起動します。

以上でMO ユーティリティのアンインストールは完了です。

MO ディスクのフォーマット

Windowsには標準でフォーマットツールが添付されていますが、異なるOS間でMOディスクを共有して使用する場合に互換性による問題が生じることがあります。MOディスクをフォーマットするときは、インストールされたMOフォーマットを使用してください。

フォーマット時の注意

MOフォーマットは、他のアプリケーション(エクスプローラなど)をすべて終了してから実行してください。

- MOフォーマットを使用すると、ディスク全体がフォーマットされます。大切なデータはフォーマットする前に必ずバックアップしてください。
- MOフォーマットではパーティションを作成できません。また、リムーバブルメディア以外(ハードディスクなど)のフォーマットもできません。
- Windows2000で、PCカード(SCSIカード)を使用してMOSをパソコンに接続している場合は、活線挿抜(*)をしないでください。
  MOSは、パソコンを起動する前にパソコンに接続してください。
  パソコンの起動後にPCカードを抜き差しした場合は、再度PCカードをパソコンに接続し、パソコンを再起動してください。
  * パソコンの電源スイッチがONの状態でPCカードを抜き差しすること。
- MOフォーマットでフォーマットされたMOディスクをWindows2000のフォーマット機能で再フォーマットする場合は、いったんNTFSでフォーマットし、その後、希望のファイルフォーマットに変更してください。
- Windows2000でNTFS形式でフォーマットされたMOディスクを書き込み禁止にした場合、書き込みだけでなく読み出しもできなくなります。
- NTFSフォーマットのMOディスクをWindows2000で使用すると、そのMOディスクはWindows2000でしか読み書きできなくなります。
- FAT32フォーマットされたMOディスクは、Windows98、Windows95 (4.00.950 B/4.00.950/C)、Windows2000でのみ使用できます。
- 他のアプリケーション(エクスプローラなど)が起動しているときは終了してください。
- MOディスクに記載されている容量は、1MB = $1{,}000^2$byteで計算されています。
  ただし、Windows上でフォーマットするときやプロパティでMOディスクの容量を確認するときは、1MB= $1{,}024^2$byteで計算されるため、表示される容量が異なります。
- MOディスクによっては、物理フォーマットに数十分かかるものもあります。
  MOドライブが停止しているように思われても、アクセスランプが点灯または点滅している時はまだ物理フォーマットが行われています。そのままフォーマットが終了するまでお待ちください。
- MOフォーマットの起動中は、エクスプローラや[マイ コンピュータ]からMOディスクの内容を見ないでください。
  見ようとすると、「ファイルシステムのエラーです」というエラーメッセージが表示されます。その場合はMOフォーマットを終了し、再度エクスプローラや[マイ コンピュータ]からMOディスクの内容を見てください。
- 本製品以外でのMOフォーマットの使用は、弊社では保証しておりません。

1

MOユーティリティ

MOフォーマットの起動と終了

・起動方法 ..... [スタート] — [プログラム(P)] — [MOS MOフォーマット] — [MOフォーマット] を選択してください。

※ WindowsNT3.51の場合は、[MOS MOフォーマット] グループの [MOフォーマット] アイコンをダブルクリックします。

・終了方法 ..... MOフォーマットの [閉じる] ボタンをクリックしてください。

フォーマット手順

次の手順でMOディスクをフォーマットします。

⚠注意 • **フォーマットすると、MOディスク内のデータはすべて消去されます。フォーマットする前に、消去してもよいデータか必ず確認してください。**

• **フォーマット中はマウスやキーボード、電源スイッチ、リセットスイッチの操作を一切行わないでください。**

1 **フォーマットしたいMOディスクをMOドライブに挿入し、MOフォーマットを起動します。**
【P11「MOフォーマットの起動と終了」】

2



ここをクリックして ［バージョン情報(A)］ を選択すると、 MO フォーマットのバージョン情報が表示されます。

① フォーマットする MO ドライブ （MOS） を選択します。

② フォーマット方法を選択します。

③ フォーマット形式を選択します。

④ 必要に応じてボリュームラベルを入力します （最大半角英字 11 文字）。

⑤ ［開始(S)］ ボタンをクリックします。

• **ドライブ情報** ....



MOドライブの名称　MOディスクの容量

<ホストアダプタ番号>:<ターゲット ID>:<LUN 番号>

• **フォーマット方法** .... ［標準］ **論理フォーマットのみ行います。**
［完全］ **物理フォーマットを行い、その後に論理フォーマットを行います。**

• **フォーマット形式** .... ［FAT16］ と ［FAT32］ が選択できます。

※ Windows95 （4.00.950/4.00.950a） およびWindowsNT4.0/NT3.51では、FAT32は選択できません。

※ FAT32 フォーマットされた MO ディスクは、Windows98、Windows95 （4.00.950 B/4.00.950 C)、Windows2000 でのみ使用できます。

• ［ディスクチェック］ ボタン .... **表示内容を更新します。**
MO フォーマットを起動した後に MO ディスクを挿入した場合や、MO ディスクを入れ替えた場合にクリックします。

次のページへ続く

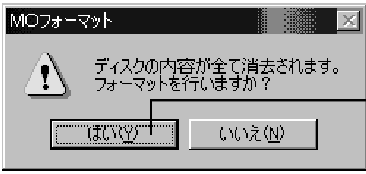
フォーマット方法で［完全］を選択した場合

「物理フォーマットは数分から数十分を要します。（以下略）」というメッセージが表示されます。物理フォーマットしてもよければ、［はい(Y)］ボタンをクリックします。

物理フォーマット中は経過時間が表示されます。

⚠注意 物理フォーマット中に［強制終了(X)］ボタンをクリックすると物理フォーマットは中断されますが、Windowsの動作が不安定になります。その場合は、パソコンを再起動してください。

3



［はい(Y)］ボタンをクリックします。

⚠注意 フォーマット中はマウスやキーボード、電源スイッチ、リセットスイッチを一切操作しないでください。

4



［OK］ボタンをクリックします。

MOディスクが排出されます。

以上でフォーマットは完了です。

MOキャッシュコントロールユーティリティの設定

弊社製MOSシリーズは、書き込み性能を向上させる「ライトキャッシュ機能」を内蔵しています。

MOSシリーズのキャッシュ機能は、出荷時は有効（ON）に設定されています。640MB以上のコニカ製ドライブ使用MOSシリーズ（MOS-S645R/S640Sなど）では、本ドライバディスクに収録されているキャッシュコントロールユーティリティを使用してライトキャッシュを無効（OFF）に設定できます。

⚠注意
- ライトキャッシュの設定をする前に、必ずMOディスクをMOSから取り出してください。
- ライトキャッシュの設定は、640MB以上のコニカ製ドライブ使用MOSシリーズでのみ行えます。

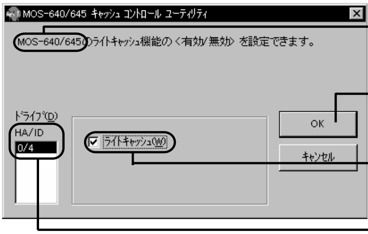
1 「MOSシリーズドライバディスク」をインストールします。【P7「インストール」】

2 ［スタート］－［プログラム(P)］－［MOS MOフォーマット］－［MOキャッシュコントロールユーティリティ］を選択します。

1 MOユーティリティ

次のページへ続く

3



MOSシリーズの機種によって製品名称が異なります。

設定を有効にするときは［OK］ボタンをクリックします。

ライトキャッシュを無効にするときは、クリックしてチェックマーク（✓）を外します。

<ホストアダプタ番号>/<MOドライブのSCSI-ID>が表示されます。640MB以上のMOドライブ以外のMOドライブは、表示されません。

メモ 設定した内容は、MOSの電源スイッチをOFFにした後も保持されます。

⚠注意 MOSにMOディスクが挿入されていると、[ライトキャッシュ(W)]のチェックボックスがグレー表示になり選択できません。その場合は、MOディスクを取り出した後で[ドライブ(D)]に表示されている数字をクリックすると、[ライトキャッシュ(W)]のチェックボックスが選択可能になります。

Windows98/95でPCIバス用SCSIインターフェースボードを使用している場合

PCIバス用SCSIインターフェースボードを使用していて、ライトキャッシュを有効(ON)にするとエラーが発生する場合は、次の手順で設定してください。

1 **[スタート] − [設定(S)] − [コントロール パネル(C)]と選択します。**

2 **[システム]アイコンをダブルクリックします。**

3 **[デバイス マネージャ]タブをクリックします。**

4 **[ディスク ドライブ]をダブルクリックします。**

5 **表示されたドライブからMOSの型番をダブルクリックします。**

ドライブユニットの製造元の型番が表示されます。MOSシリーズによって型番は異なります。
例： KONICA OMD-XXXX

6 **[設定]タブをクリックします。**

7 **[切断]のチェックボックスをクリックしてチェックマーク(✓)を外し、[OK]ボタンをクリックします。**

8 **[デバイス マネージャ]画面に戻ったら、[OK]ボタンをクリックします。**

9 **以降は表示されるメッセージに従ってパソコンを再起動します。**

この設定を行ってもエラーが発生するときは、「MOキャッシュコントロールユーティリティ」でライトキャッシュを無効にして使用してください。

DOS/Windows3.1での使用

DOS/Windows3.1でのドライバおよびフォーマッタのインストール方法や、MOディスクのフォーマット方法などを説明しています。

メモ インストールの前に、付属の「MOSシリーズドライバディスク」に収録されているREADMEファイル(README.TXT)を必ず参照してください。
READMEファイルには次の内容が記載されています。
- インストールの概要、手順、エラーメッセージ、実行結果
- Windows3.1からWindows98/95へのアップグレード時の注意
- フォーマット手順、エラーメッセージ
- MOキャッシュコントロールユーティリティの設定
- 付属ドライバリファレンス

※ README.TXTは、EDIT.EXEやSEDIT.EXEなどのエディタで参照できます。エディタの使用方法は、エディタのヘルプファイルを参照してください。

1

MOユーティリティ

インストール手順

MOドライブをパソコンに取り付けた後、起動ドライブにMOドライバを組み込みます。

⚠注意 Windows3.1が起動しているときは終了させ、DOSのコマンドプロンプトでインストールしてください。
Windows3.1のMS-DOSプロンプトからはインストールできません。

※ インストールを実行する前に、MOドライブをパソコンに取り付けておいてください。

1 **周辺機器(MOドライブを含む)→パソコンの順に電源スイッチをONにし、DOSのコマンドが入力できる状態にします。**

2 **フロッピーディスクドライブに「MOSシリーズドライバディスク」をセットします。**

3 **A:と入力し、<Enter>キーを押します。**

下線部にはフロッピーディスクドライブのドライブ名を入力します。

4 **SETUPと入力し、<Enter>キーを押します。**

インストーラが起動し、自動的にパソコンの機種が判別されます。

⚠注意 CD-ROMドライブ内の［MELCO］フォルダに収録されているSETUP.EXEは実行しないでください。古いバージョンのMOフォーマットがインストールされます。

続いて、パソコンに接続されているSCSI機器が自動的にチェックされます。SCSI機器のチェックが終了すると、SCSI機器の接続状態とインストール方法の選択画面が表示されます。

5 **[1 自動設定]にカーソルを合わせ、<Enter>キーを押します。**

[2 ﾌｧｲﾙのｺﾋﾟｰのみ]を選択した場合

CONFIG.SYSやAUTOEXEC.BATは変更されません。

次のページへ続く

6 **MOドライバを登録するドライブとディレクトリを入力し、<Enter>キーを押します。**

初期設定は起動ドライブの\MELMOです。

7 **「インストールは正常に終了しました。(以下略)」というメッセージが表示されたら、<Enter>キーなどの任意のキーを押してDOSのコマンドプロンプトに戻ります。**

競合するドライバが見つかった場合

インストーラは自動的に競合するドライバを削除します。画面のメッセージを確認して、<Enter>などの任意のキーを押してください。

以上でインストールは完了です。MOドライブはパソコンの再起動後に使用できるようになります。

フォーマット手順

1 **次のように入力して、ドライバをインストールしたディレクトリをカレントディレクトリにします。**

例)Cドライブの\MELMOにインストールした場合

A:\>C:　<Enter>

C:\>CD MELMO　<Enter>

2 **次のように入力して、フォーマッタ「MELMOFMT」を起動します。**

C:\MELMO>MELMOFMT　<Enter>

パソコンに接続されているSCSI機器が検索されます。

メモ　次の起動オプションを指定して起動することもできます。

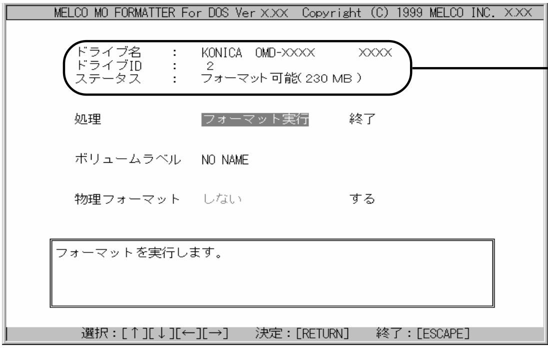
/Q	複数台のMOドライブが接続されている場合は、1台目のMOドライブをフォーマットの対象とします。
/V="<ボリュームラベル>"	デフォルトのボリュームラベルを指定します。(最大半角英字11文字)
/P	物理フォーマットを行う設定をデフォルトにします。
/N	キー入力や画面表示などを行わずにフォーマットします。すべてデフォルトの設定が選択されます。複数台のMOドライブが接続されている場合は、1台目のMOドライブをフォーマットの対象とします。

複数台のMOドライブを接続しているとき

ドライブの選択画面が表示されます。<↑><↓>キーを押してフォーマットするドライブを選択し、<Enter>キーを押します。

次のページへ続く

3 MELMOFMTのメイン画面が表示されます。フォーマットの条件を設定します。



選択したMOドライブのドライブ名、SCSI-ID、容量が表示されます。

選択したMOドライブのドライブ名、SCSI-ID、容量が表示されます。

表示項目の内容は次のとおりです。

- ボリュームラベル .... MOディスクの名称を設定できます。必要に応じて入力してください。（最大半角英字11文字まで）
  /Vオプションでも同様に指定できます。【P16】
- 物理フォーマット .... 通常のフォーマット（論理フォーマット）を行う前に物理フォーマットを行います。
  /Pオプションでも同様に指定できます。【P16】

4 フォーマットの条件を設定したら、[処理]の[フォーマット実行]にカーソルを合わせ、<Enter>キーを押します。

フォーマットが始まります。

5 以降は画面のメッセージに従って操作してください。

1

MOユーティリティ

2 Drive Image

Drive Imageのインストール方法や使用方法などを説明しています。

Drive Imageの概要

「Drive Image」は、ハードディスクドライブのデータをMOディスクなどへバックアップするのに便利なユーティリティです。必要に応じてインストールしてください。

できること

・ハードディスクのバックアップや復元作業が簡単に行えます。
・複数のメディアに分けてバックアップすることができます。

Windows2000での制限事項

● イメージ作成対象がベーシックディスクの場合

・イメージ作成・復元時に次のエラーメッセージが表示されることがありますが、動作上は問題ありません。[無視(I)]ボタンをクリックして作業を続行してください。([キャンセル(C)]ボタンをクリックすると、作業は中断されます。)

「エラー#1649 ログファイルが4MBを超えている」

・イメージを作成した元の領域よりも小さい領域には、復元できません。

● イメージ作成対象がダイナミックディスクの場合

パーティションを認識できないため、ドライブ1台まるごとのイメージ作成のみが可能です。

推奨動作環境

・CPU .... Intel i486以上
・メモリ 32MB以上
・ハードディスクの空き容量 15MB以上

⚠注意 ・PC-9821/9801シリーズでは使用できません。
・弊社製IFC-NSP(SCSIインターフェース)またはIFC-NSP-C/C2にMOSを接続しているときは、Drive Imageは使用できません。

Drive Imageのマニュアルを読むには

弊社は紙資源を節約し、環境保護の観点から、Drive Imageのマニュアルを電子データ(PDFファイル)としてCD-ROMに収録しています。

※ Windows3.1/DOSでは画面上でマニュアルデータを読むことはできません。
Windows3.1/DOSをお使いの方は、弊社備品販売窓口までお申し込みください。マニュアルデータを印刷したものを2,100円(税込)でお送りします。
お申し込み先は、裏表紙に記載されている「マニュアル申し込み方法」をご参照ください。

次のページへ続く

1 **付属の「ユーティリティCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットし、Drive Imageのメニュー画面を表示させます。【P19「インストール」】**

2 **[ドキュメント(D)] ボタンをクリックし、[Drive Imageユーザーズガイド(D)] を選択します。**

画面にマニュアルが表示されます。

メモ 画面上では見づらい場合は、印刷してご覧ください。

インストール

● フォーマット済みの1.44MBの空きフロッピーディスクを3枚用意してください。緊急用ディスケットの作成に使用します。

⚠注意 **緊急用ディスケットの1枚目(起動ディスク)はDrive Image専用です。Drive Imageの起動以外の用途で使用しないでください。**

Windows98/95

1 **周辺機器(MOドライブを含む)→パソコンの順に電源スイッチをONにし、OSを起動します。**

2 **CD-ROMドライブに「ユーティリティCD-ROM」をセットします。**

自動的にインストーラが起動します。

インストーラが自動的に起動しない場合

1 [マイ コンピュータ] アイコンをダブルクリックします。

2 CD-ROMドライブのアイコンをダブルクリックします。

3 **Drive Imageのメニュー画面が表示されます。**



[Drive Imageのインストール(I)] をクリックします。

2

Drive Image

次のページへ続く

4 以降は画面の指示に従ってインストールします。

⚠注意 緊急用ディスケットは必ず作成してください。緊急用ディスケットは、トラブルによって CD-ROMドライブやハードディスクドライブからDrive Imageにアクセスできなくなった場合などに使用します。

メモ アンインストールするには、[スタート] — [プログラム(P)] — [PowerQuest Drive Image] — [Drive Imageのアンインストール]を選択します。

Windows2000/NT4.0/NT3.51、Windows3.1、DOS

1 DOSコマンドが入力できる状態にします。

- Windows2000/NT4.0 .. [ｽﾀｰﾄ] — [ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ(P)] — [ｺﾏﾝﾄﾞﾌﾟﾛﾝﾌﾟﾄ]を選択します。
- WindowsNT3.51 ...... [メイン]グループの[コマンドプロンプト]アイコンをダブルクリックします。
- Windows3.1 .... [メイン]グループの[MS-DOSプロンプト]アイコンをダブルクリックします。
- DOS .... パソコンを起動すると、そのままDOSコマンドが入力できる状態になります。

2 E:と入力し、<Enter>キーを押します。

下線部にはCD-ROMドライブのドライブ名を入力します。

3 CD SETUP\OS2DOSと入力し、<Enter>キーを押します。

4 MAKEDISK.BAT A:と入力し、<Enter>キーを押します。

下線部にはフロッピーディスクドライブのドライブ名を入力します。

5 以降は画面の指示に従ってインストールします。

Drive Imageの起動

⚠注意 Drive Imageを起動する前に、バックアップしたいドライブの各パーティションに対して、スキャンディスクやCHKDSKなどのディスクユーティリティを実行してください。エラーがあった場合は修復してください。
※ Windows2000/NT4.0/NT3.51の場合はCHKDSK /Fを実行してください。

Windows98/95

Windows98/95では、ハードディスクからDrive Imageを起動します。

1 [スタート] — [プログラム(P)] — [PowerQuest Drive Image] — [Drive Image]を選択します。

2 以降は画面の指示に従って操作します。

次のページへ続く

メモ パソコンが起動しないとき

インストール時に作成した緊急用ディスケットで Drive Imageを起動します。次の手順で操作してください。

① フロッピーディスクドライブに緊急用ディスケットの1枚目（起動ディスク）を挿入し、パソコンを再起動します。
② キーボードタイプを選択します。A:\>と表示されたら、緊急用ディスケットの2枚目（プログラムディスク）をフロッピーディスクドライブに挿入します。
（下線部はフロッピーディスクドライブのドライブ名です。）
③ PQDIと入力し、<Enter>キーを押します。
④「Please insert “Program Diskette 3 of 3”」というメッセージが表示されたら、緊急用ディスケットの3枚目（プログラムディスク）をフロッピーディスクドライブに挿入し、<Enter>キーを押します。
⑤ 以降は画面の指示に従って操作します。

Windows2000/NT4.0/NT3.51、Windows3.1、DOS

Windows2000/NT4.0/NT3.51、Windows3.1、DOSでは、インストール時に作成した緊急用ディスケットからDrive Imageを起動します。

1 **Drive Imageのインストール時に作成した緊急用ディスケットの1枚目（起動ディスク）をフロッピーディスクドライブに挿入します。**

2 **パソコンを再起動します。**

3 **A:\>と表示されたら、緊急用ディスケットの2枚目（プログラムディスク）をフロッピーディスクドライブに挿入します。**

下線部はフロッピーディスクドライブのドライブ名です。

4 **PQDIと入力し、<Enter>キーを押します。**

5 **以降は画面の指示に従って操作します。**

メモ「Please insert “Program Diskette 3 of 3”」というメッセージが表示されたときは、緊急用ディスケットの3枚目（プログラムディスク）をフロッピーディスクドライブに挿入し、<Enter>キーを押してください。

使いかた

MOディスクへのイメージファイルの作成(バックアップ)方法と復元方法の例を説明します。

メモ 詳しい操作方法や設定方法は、付属CDに収録されているDrive Imageのマニュアルを参照してください。

MOディスクへのイメージファイルの作成(バックアップ)

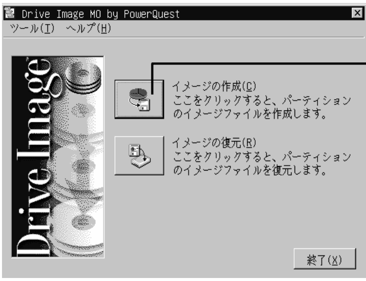
注意
- 復元の際に、イメージファイルを作成したときとハードウェア構成が異なっていると、パソコンが正常に動作しません。イメージファイルの作成と復元は必ず同じハードウェア構成で行ってください。
- バックアップ元のハードディスクには、10MB以上の空きを確保しておいてください。これは容量認識がOSとBIOSで異なり、復元時に8MB程度少なくなることがあるためです。

メモ イメージファイルが1枚のMOディスクに入りきらないときは、複数のMOディスクに分割して作成します。その場合は1枚目のMOディスクに「MYIMAGE DISK#1」と書いたラベルを貼り、以降のMOディスクに「MYIMAGE DISK#2」、「MYIMAGE DISK#3」･･･と連番のラベルを貼ってください。

1 Drive Imageを起動します。【P20「Drive Imageの起動」】

2 「MYIMAGE DISK#1」と書いたラベルを貼ったMOディスクをMOドライブに挿入します。

3



［イメージの作成(C)］ボタンをクリックします。

4



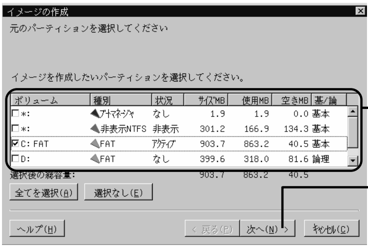
※ ハードディスクが1台しか接続されていないときは、この画面は表示されません。

① バックアップしたいパーティションがあるドライブをクリックしてチェックマーク(✓)を付けます。

② ［次へ(N)>］ボタンをクリックします。

次のページへ続く

5



① バックアップしたいパーティションをクリックしてチェックマーク（✓）を付けます。

② ［次へ(N)>］ボタンをクリックします。

6 **［イメージファイル(F)］に指定するパスとファイル名を入力し、［次へ(N)>］ボタンをクリックします。**

入力例： F:\MYIMAGE.PQI （下線部にはMOドライブのドライブ名を入力します。）

⚠注意
- 指定したパスに同名のファイルがあると、そのファイルは上書きされます。上書きしたくないときはパスかファイル名を変更してください。
- このとき、NTFS形式（WindowsNT4.0/3.51）の領域は認識されません。そのため、お使いの環境にNTFS形式の領域が含まれているとMOS（リムーバブルディスクドライブ）のドライブ名が変更されますので、ご注意ください。
- WindowsNT4.0/3.51の場合、お使いのパソコンの環境によってはMOS（リムーバブルディスクドライブ）がフロッピーディスクと表示されることがあります。

7 **［次へ(N)>］ボタンをクリックします。**

8 **圧縮レベルを選択し、［次へ(N)>］ボタンをクリックします。**

- 非圧縮(0) .... 圧縮しません。
- 標準レベル(L) ...... 平均40%の圧縮率になります。
- 高レベル(H) .... 平均50%の圧縮率になります。

9 **［拡張オプション(A)］をクリックします。［ファイルシステムのエラー診断(F)］などの項目を設定し、［OK］ボタンをクリックします。**

10 **設定内容が表示されます。間違っていないか確認し、［完了(F)］ボタンをクリックします。**

イメージ作成が開始され、経過時間と残り時間が表示されます。
次のメディアを挿入するよう要求された場合は、MOドライブのアクセスランプが消えるのを確認して、ラベルの番号順にMOディスクを入れ替えてください。
使用するMOディスクには100KB以上の空き容量が必要です。

11 **処理が完了すると、「イメージファイルが作成されました：<イメージファイル名>」というメッセージが表示されます。［OK］ボタンをクリックします。**

以上でイメージファイルの作成は完了です。手順 3の画面に戻って ☒ ボタンをクリックし、Drive Imageを終了します。

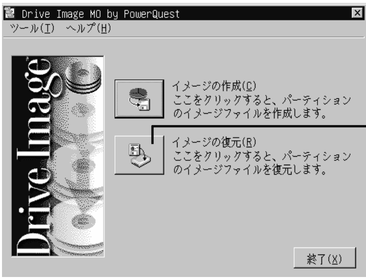
⚠注意 イメージファイルを復元する際に、正しい順番でMOディスクを挿入する必要があります。MOディスクは順番がわかるように大切に保管してください。

MOディスクからの復元

⚠注意 • 復元先のパーティションやドライブに、イメージファイルを作成した元のデータの容量と同じサイズかそれ以上の空き容量が必要です。ただし、復元時に［パーティション変更］を選択すると、復元先のパーティションやドライブのサイズが復元もとのサイズより小さくても復元できます。
• 復元の際に、イメージファイルを作成したときとハードウェア構成が異なっていると、パソコンが正常に動作しません。イメージファイルの作成と復元は、必ず同じハードウェア構成で行ってください。

1 Drive Imageを起動します。【P20「Drive Imageの起動」】

2



［イメージの復元(R)］ボタンをクリックします。

3 「MYIMAGE DISK#1」というラベルの貼られたMOディスクをMOドライブに挿入します。

4 ［イメージファイル(F)］に復元したいイメージファイルのファイル名を入力し、［次へ(N)>］ボタンをクリックします。

入力例：F:\MYIMAGE.PQI　（下線部にはMOドライブのドライブ名を入力します。）

⚠注意 • このとき、NTFS形式(WindowsNT4.0/3.51)の領域は認識されません。そのため、お使いの環境にNTFS形式の領域が含まれているとMOS(リムーバブルディスクドライブ)のドライブ名が変更されますので、ご注意ください。
• WindowsNT4.0/3.51の場合、お使いのパソコンの環境によってはMOS(リムーバブルディスクドライブ)がフロッピーディスクと表示されることがあります。

5



① 復元先の空き領域をクリックしてチェックマーク(✓)を付けます。

② ［次へ(N)>］ボタンをクリックします。

次のページへ続く

6



① 復元先のドライブをクリックしてチェックマーク（✓）を付けます。

② ［次へ(N)>］ボタンをクリックします。

7



① 復元したいパーティションをクリックしてチェックマーク（✓）を付けます。

② ［次へ(N)>］ボタンをクリックします。

8 **復元先の空き領域の容量が復元もとよりも大きい場合は、「元のサイズで復元／コピーを行うと空き容量が残ります。よろしいですか?」というメッセージが表示されます。**

次のいずれかのオプションを選択して［OK］ボタンをクリックします。

- サイズを自動的に変更して復元／コピーする(A) .... 復元先のパーティションサイズを自動的に大きくし、空き容量をなくします。
- 元のサイズで復元／コピーする(L) .... パーティションサイズを復元もとと同じにします。
- サイズを手動で変更して復元／コピーする(R) .... 手動でパーティションサイズを指定できます。

9 **手順 7で空き領域以外を選択した場合は、警告メッセージが表示されます。復元するときは［OK］ボタンをクリックします。**

⚠注意 復元先のパーティション内のデータはすべて削除されます。必要なデータは、復元を行う前に他のドライブやパーティションにコピーしておいてください。

10 **ディスクの書き込みモードを選択し、［次へ(N)>］ボタンをクリックします。**

- 高速モード(F) .... 復元先のディスクの状態を検査しないため、復元が高速です。
- セーフモード(S) ... 復元先のディスクの状態を検査するため、復元が遅くなります。

11 **［拡張オプション(A)］をクリックします。［復元後にパーティションを非表示にする(H)］などの項目を設定し、［OK］ボタンをクリックします。**

⚠注意
- 複数の論理パーティションを復元すると、他のドライブにあるパーティションのドライブ名が変更され、正常に動作しないことがあります。
- 基本パーティションを復元するときは［復元後にパーティションを非表示にする(H)］を選択してください。選択しないと、正常に動作しないことがあります。

次のページへ続く

12 設定内容が表示されます。間違っていないか確認し、[完了(F)] ボタンをクリックします。

復元作業が開始され、経過時間と残り時間が表示されます。

復元したいイメージファイルが複数のMOディスクに保存されているときは、「新しいメディアを挿入してください」というメッセージが表示されます。この場合はMOドライブのアクセスランプが消えるのを確認して、ラベルの番号順にMOディスクを入れ替えてください。

13 処理が完了すると、「イメージは正常に復元されました」というメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックします。

手順 2の画面に戻って ☒ ボタンをクリックし、Drive Imageを終了します。

14 パソコンを再起動します。

以上でイメージファイルの復元は完了です。

3 付録

MO ディスク間のコピー（Windows98/95 のみ）

本製品付属の「MOコピー」を使用すれば、1台のMOドライブで、MOディスク間のコピーが簡単にできます。

制限事項

MOコピーは、他のアプリケーション（エクスプローラなど）をすべて終了してから操作してください。

- コピーは同じ容量のMOディスク間でだけ行えます。コピー元とコピー先のMOディスクの容量が異なる場合はコピーできません。
  例）・コピーできる
  640MBのMOディスク→640MBのMOディスク
  ・コピーできない
  230MBのMOディスク→640MBのMOディスク

  メモ Windows標準のディスクコピー機能は、MOディスク間のコピーには対応していません。

- ハードディスクドライブを経由してデータをコピーするため、コピーするMOディスクの容量以上の空き容量が1台のハードディスクに必要です。
- ファイルフォーマットがFAT16形式のMOディスクを使用している場合にだけ、高速でコピーできます。
- MOコピーの起動中は、エクスプローラや［マイ コンピュータ］からMOディスクの内容を見ないでください。
  見ようとすると、「ファイルシステムエラーです」というエラーメッセージが表示されます。その場合はMOコピーを終了し、再度エクスプローラや［マイ コンピュータ］からMOディスクの内容を見てください。
- 本製品以外でのMOコピーの使用は、弊社では保証しておりません。

3

付録

コピー手順

1 ［スタート］－［プログラム(P)］－［MOS MOフォーマット］－［MOコピー］を選択します。

2



① コピーに使用するMOドライブ（MOS）を選択します。

② ［開始(S)］ボタンをクリックします。

次のページへ続く

メモ　パーシャルコピー機能について

［パーシャルコピー機能を使用する(P)］のチェックマーク（✓）を付けた状態（初期状態）で［開始(S)］ボタンをクリックすると、ファイルデータだけがコピーされます。そのため、コピーにかかる時間が短くなります。

チェックマークを外した場合、コピー元のMOディスク内にあるすべての情報がコピーされます。

> パーシャルコピー機能は、次のMOディスクをコピー元としたときに使用できます。
>
> ・本製品付属の「MOフォーマット」でFAT16形式フォーマットしたMOディスク
>
> 次のMOディスクをコピー元にした場合、パーシャルコピーはできませんので、チェックマークは外してください。
>
> ・「MOフォーマット」以外のフォーマッタでフォーマットされたMOディスク
> ・FAT16形式以外のフォーマット形式（FAT32やNTFSなど）のMOディスク
> ・Macintoshフォーマット（HFSなど）のMOディスク

3　**コピー元のMOディスクをMOSにセットします。**

4



［OK］ボタンをクリックします。

5



コピー先のMOディスクをMOSにセットします。

自動的にMOディスクが検出され、ファイルがコピーされます。

6



同じ内容をさらに別のMOディスクにコピーするときは［はい(Y)］ボタンをクリックします。MOコピーを終了するときは［いいえ(N)］ボタンをクリックします。

以上でコピーは完了です。

MO ディスク内のファイルの削除（Windows98/95 のみ）

本製品付属の「ダストシュート」を使用すれば、MO ディスク内のファイルを完全に削除できます。
ダストシュートで削除したファイルは、ファイル復旧ユーティリティや DOSのUndeleteコマンドでも復旧できないため、機密データの削除に最適です。

メモ　Windows上の操作で削除したファイルは、ファイル復旧ユーティリティやDOSのUndeleteコマンドで復旧できることがあります。

制限事項

- ダストシュートで削除したファイルは、ファイル復旧ユーティリティや DOS の Undelete コマンドでは復旧できません。
  必要なデータは絶対にダストシュートでは削除しないでください。
- ダストシュートはファイルフォーマットが FAT16/32 形式の MO ディスクの場合にだけ使用できます。
- フォルダを削除することはできません。
- ダストシュートで削除できるのは MO ディスク内のファイルだけです。
  ハードディスクドライブなど他のメディア内のファイルは削除できません。
- ダストシュートによるデータの削除後もファイル名の痕跡だけは残ります。
  ファイルの実体は残りません。
- 本製品以外でのダストシュートの使用は、弊社では保証しておりません。

3
付録

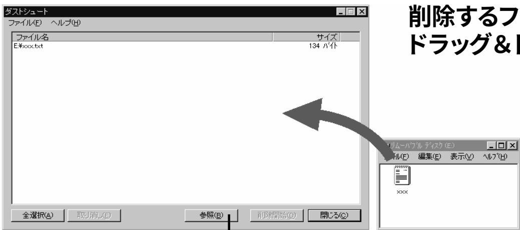
削除手順

1　**［スタート］－［プログラム(P)］－［MOS MOフォーマット］－［ダストシュート］を選択します。**

デスクトップ画面上の［ダストシュート］アイコンをダブルクリックしても起動できます。

2　**削除したいファイルの入った MO ディスクを MOS に挿入します。**

3



削除するファイルをダストシュートの画面にドラッグ＆ドロップします。

［参照(B)］ボタンをクリックして、削除するファイルを選択することもできます。

次のページへ続く

4

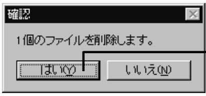


① 削除するファイルを選択して反転表示にします。

② [削除開始(D)] ボタンをクリックします。

複数のファイルを削除するときは、[全選択(A)]ボタンをクリックしてすべてのファイルを選択してから[削除開始(D)]ボタンをクリックします。また、<Shift>キーまたは<Ctrl>キーを押しながらマウスをクリックして、複数のファイルを選択することもできます。

5



[はい(Y)] ボタンをクリックします。

ファイルが削除されます。

6



さらに他のファイルを削除するときは [いいえ(N)] ボタンを、ダストシュートを終了するときは [はい(Y)] ボタンをクリックします。

以上でファイルの削除は完了です。

メモ 上記の手順以外にも、次の方法でダストシュートによるファイルの削除ができます。

※ 次の方法の場合、削除するファイルが下の方の階層にあると、同時に複数のファイルを削除できないことがあります。その場合は、複数回に分けてファイルを削除してください。

＜方法1＞

① エクスプローラや [マイ コンピュータ] でMOディスクの内容を表示し、削除したいファイルを右クリックします。
② 表示されたメニューから[送る(N)] － [ダストシュート]を選択します。
③ 「...個のファイルを削除します」と表示されたら、[はい(Y)]ボタンをクリックします。
④ 「指定されたファイルの削除が終了しました」と表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。

＜方法2＞

① デスクトップ画面上の [ダストシュート] アイコンに、MOディスク内の削除したいファイルをドラッグ&ドロップします。
② 「...個のファイルを削除します」と表示されたら、[はい(Y)]ボタンをクリックします。
③ 「指定されたファイルの削除が終了しました」と表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。

困ったときは

MOドライブが正常に動作しないときの対処方法を説明しています。これらの確認を行っても正常に動作しないときは、弊社インフォメーションセンターへお問い合わせください。

インストーラが正常に起動しない（SCSI 機器を検索中にシステムが停止する）／ドライバをインストール後、パソコンが正常に起動しない

DOS/V機でWindows3.1、DOSを使用している場合は、次のバージョンのEMM386.EXEが使われているか確認してください。

- Microsoft製 MS-DOS EMM386.EXE バージョン4.49以降
- IBM製PC DOS EMM386.EXE バージョン4.50以降

上記以外のバージョンを使用していると、MOドライブへのアクセス中に正常に動作しなくなることがあります。MOドライブを使用する前に、必ずEMM386.EXEのバージョンを確認してください

MS-DOSの場合、このバージョン以前のEMM386.EXEについて、マイクロソフト社ではアップデートサービスを行っています。

アップデートの詳細については、マイクロソフト社にお問い合わせください。

なお、弊社ではEMM386.EXEのアップデートに関するお問い合わせは承っておりません。

メモ
・Windows98/95/2000/NT4.0/NT3.51では問題なく動作します。
・EMM386.EXEのバージョンは、次の方法で確認できます。

DOSを起動してC:\DOS\EMM386と入力し、<Enter>キーを押します。

表示例）MS-DOSの場合

```
Microsoft EMS メモリマネージャ386 Version4.49
Copyright Microsoft Corporation 1986,1993
```

この数字がバージョンを表します。

表示例）PC DOSの場合

```
IBM Expanded Memory Manager 386 Version4.50
Copyright(c)IBMCorp.1986,1993
```

この数字がバージョンを表します。

MO ドライブが認識されない（ドライブアイコンが表示されない）

- SCSI機器のSCSI-IDが重複していないか確認してください。重複している場合は、重複しないようにSCSI-IDを設定し直してください。
- SCSI-IDが0から連続して設定されているか確認してください。

  ※ MOドライブだけを接続しているときは、SCSI-IDを0に設定してください。
- SCSIインターフェースケーブルやコネクタが確実に接続されているか確認してください。

⚠注意 SCSIインターフェースケーブルやコネクタの接続を確認するときは、必ずパソコンと周辺機器の電源スイッチをOFFにしてください。

MO ドライブの動作が不安定（読み込み／書き込み時にエラーが出る）

- SCSIインターフェースケーブルやターミネータが確実に接続されているか確認してください。

⚠注意 SCSIインターフェースケーブルやターミネータの接続を確認するときは、必ずパソコンと周辺機器の電源スイッチをOFFにしてください。

- SCSIインターフェースケーブルのインピーダンス値が統一されているか確認してください。SCSI機器の接続には、MOSシリーズに付属のSCSIインターフェースケーブルまたは、別売の弊社製SCSIインターフェースケーブルを使用してください。いずれもハイインピーダンスのケーブルです。
- Ultra SCSIインターフェースボードを使用している場合、SCSI BIOSで同期転送を無効（非同期またはAsyc）に設定することで改善することがあります。
  設定方法はUltra SCSIインターフェースボードのマニュアルを参照してください。

Windows98/95 で［リムーバブル ディスク］のアイコンが複数表示される

MOドライブの［予約ドライブ文字］が複数のドライブ文字に設定されています。次の手順で1つのドライブ文字に設定してください。

① デスクトップ画面の［マイ コンピュータ］アイコンを右クリックします。表示されたメニューから［プロパティ(R)］を選択します。

② ［デバイス マネージャ］タブをクリックします。［ディスクドライブ］の文字をダブルクリックします。

③ 表示されたドライブからMOドライブの型番（*）をダブルクリックします。

* ドライブユニットの製造元の型番が表示されます。MOドライブによって型番は異なります。

④ ［設定］タブをクリックします。

⑤ ［開始ドライブ（文字）］と［終了ドライブ（文字）］の▼をクリックし、表示されたドライブ文字から1つ選択します。

※ ［開始ドライブ（文字）］と［終了ドライブ（文字）］は同じドライブ名にしてください。

MO ディスクを入れ替えると Windows95 が不安定になる

パソコンを再起動し、MOドライブの電源を入れ直してください。

640MB の MO ディスクの内容が表示されない（WindowsNT3.51 のみ）

640MBのMOディスクを挿入したままWindowsNT3.51に付属の「ディスクアドミニストレータ」を起動してください。

Windows98/95 で今まで使用していた Zip ドライブが表示されない

次の手順でZipドライブの［予約ドライブ文字］を設定してください。

① デスクトップ画面の［マイ コンピュータ］アイコンを右クリックします。表示されたメニューから［プロパティ(R)］を選択します。

② ［デバイス マネージャ］タブをクリックします。［ディスクドライブ］の文字をダブルクリックします。

③ 表示されたドライブからZipドライブの型番（*）をダブルクリックします。

* ドライブユニットの製造元の型番が表示されます。Zipドライブによって型番は異なります。

④ ［設定］タブをクリックします。

⑤ ［開始ドライブ（文字）］と［終了ドライブ（文字）］の▼をクリックし、表示されたドライブ文字から1つ選択します。

※ ［開始ドライブ（文字）］と［終了ドライブ（文字）］は同じドライブ名にしてください。

MS-DOS 6.2/V の SCANDISK を実行するとエラーメッセージが表示される

MELMOFMT（DOS用フォーマッタ）でフォーマットしたMOディスクにMS-DOS 6.2/VのSCANDISKを実行すると、「…問題が見つかりました（詳細：FATメディアバイトが足りません）」というメッセージが表示されることがあります。この場合は、他のエラーを検出させるために、次の操作で修復することをおすすめします。

① ［修復する］を選択します。

② Undoディスクの作成画面が表示されたら、［Undo不要］を選択します。

③「…ファイルアロケーションテーブルのバックアップコピーは、正しくありません」というメッセージが表示されたら、［修復する］を選択します。

④「…問題が見つかり、修復されました」というメッセージが表示されたら、［終了］を選択します。

MO ディスクに書き込めない

MOディスクのプロテクトノッチが書き込み禁止になっていないか確認してください。プロテクトノッチを書き込み許可の位置にしてください。

アクセス時に「ドライブの準備ができていません」というメッセージが表示される

MOディスクが正しくMOドライブに挿入されているか確認してください。

MOディスクの挿入後、アクセスランプが点灯している間はドライブは準備中です。アクセスランプが消えてから操作を行ってください。

WindowsNT4.0/3.51 で IFC-DC(弊社製 SCSI インターフェースカード)をお使いの方へ

WindowsNT4.0/3.51使用時は「MOユーティリティ」（MOフォーマット、MOキャッシュコントロールユーティリティ）を使用できません。

※フォーマット済みの MO ディスクを使用してください。

WindowsNT4.0/3.51でIFC-UP(弊社製SCSIインターフェースボード)を以前からお使いの方へ

IFC-UPのドライバは、バージョン1.01(ドライバディスクのボリュームラベルが[IFC_UPV101]と表示されます)以降をお使いください。ドライバディスクのボリュームラベルはドライバディスクをフロッピードライブに挿入し、フロッピーディスクのプロパティを表示させることで確認できます（WindowsNT3.51の場合はコマンドプロンプトより[vol]コマンドを実行することで確認できます）。

※ 最新のドライバはインターネットホームページ（http://www.melcoinc.co.jp/）からダウンロードできます。

Windows98/95 で以前から IFC-DP（弊社製 SCSI インターフェースボード）をお使いの方へ

IFC-DPのドライバが古い場合、MOディスクドライブの動作がWindows98/95で不安定になることがあります。次の手順でドライバのバージョンを確認してください。

① デスクトップ画面左上の[マイ コンピュータ]アイコンを右クリックします。

② 表示されたメニューから[プロパティ(R)]をクリックします。

次のページへ続く

③



1. [デバイス マネージャ]タブをクリックします。
2. [SCSI コントローラの [+] をクリックします。
3. [MELCO PCI SCSI IFC-DP]をクリックして反転表示にします。
4. [プロパティ(R)]ボタンをクリックします。
   [MELCO PCI SCSI IFC-DPのプロパティ]が表示されます。

④ [ドライバ]タブをクリックします。表示されているバージョンまたは日付を確認します。
次のバージョン(または日付)だった場合、IFC-DPのドライバをアップデートしてください。

・バージョンが[1.20]より古い場合

・日付が[1-22-1998]より古い場合

※ 最新のドライバはインターネットホームページ(http://www.melcoinc.co.jp/)からダウンロードできます。

用語集

ASPI(Advanced SCSI Programming Interface)

米国 Adaptec社が提唱したソフトウェアインターフェースの仕様。各SCSIインターフェースボードのハードウェアの違いをソフトウェアによって共通化することにより、SCSI機器のドライバは、SCSIインターフェースボードの種類に関係なく、ASPI対応であれば共通に使用できます。

※ 一部のASPIドライバには、NEC PC-9821/9801シリーズとDOS/V機で共通に使用できないものもあります。

BIOS(Basic Input/Output System)

コンピュータの基本動作命令をマザーボード上に集めたプログラムのこと。キーボードやプリンタ、フロッピーディスクなどを制御します。

LUN(Logical Unit Number):ロジカルユニット番号

多連装CD-ROMドライブなど、1つの筐体に複数のドライブを持つタイプのSCSI機器の識別番号。MOドライブはLUNを持っていません。

デバイス

一般には「装置」のこと。CPUに接続されているメモリ、ディスプレイ、キーボード、ディスクドライブ、周辺機器など、すべての装置類を指します。

物理フォーマット

MOディスクのすべてのセクタに対して初期化を行います。欠陥セクタを検出してMOディスクに登録することにより、以後MOドライブがこのセクタを使用しないようにします。通常、物理フォーマットには数十分程度かかります。フォーマット中は、ディスクを取り出したり、MOドライブやパソコンの電源スイッチをOFFにしないでください。

ベリファイ

書き込んだ内容が正確に記録されているかを再度読み込みを行ない、確認を行うこと。

MOSシリーズ　セットアップマニュアル

2000年4月12日 第2版発行
発行　　株式会社メルコ

マニュアル申し込み方法

Windows3.1/DOSでは、「ユーティリティCD-ROM」に収録されているDrive Imageのマニュアルデータを画面上で読むことはできません。

印刷されたマニュアルをご希望の方は、弊社備品販売窓口までお申し込みください。マニュアルデータを印刷したものを2,100円（税込）でお送りいたします。

・インターネット　http://www.melcoinc.co.jp/qa/2898.html

※ ホームページに記載の手順でお申し込みください。

・郵送　〒457-8520 名古屋市南区柴田本通4-15 株式会社メルコ 備品販売窓口

※ 希望する備品名、ご購入の製品名（シリアルNoも必要）、送付先住所、氏名、連絡先をお書き添えください。